「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案（略案）例

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ①学年・組 | | ②職名・授業者氏名 | | ③教科 | ④ペアでの  話合い活動 | ⑤グループでの  話合い活動 |
| ４年１組 | | 日田　太郎 | | 算数 | 有 ・ 無 | 有 ・ 無 |
| ⑥単元名(題材名) | | 簡単な場合についての割合（どちらのゴムがよくのびるかな） | | | | |
| ⑦本時のねらい | | 平ゴムＡと平ゴムＢののびの違いについて、  テープ図や式などを用いて比べる活動をとおして、  割合を用いて説明できるようにする。 | | | | |
| ⑧本時の評価規準 | | 【思考・判断・表現】日常の事象における数量の関係に着目し、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係について図や式などで割合を用いて説明している。〔ノート〕 | | | | |
| ⑨  展開 | めあて | どちらのゴムがよくのびるといえるか、調べ方を考えよう。 | | | | |
|  | 課　題 | テープ図や式を使って、どのように調べればよいかな。 | | | |
| 手立て | 「Ｃ:努力を要する」状況の児童への手立て  ・「何倍か求める学習」で利用したテープ図や式を教室に掲示し、本時の課題解決の場面で関連付けて活用させる。 | | | |
| 「特別な支援等の配慮を要する」児童への手立て  ・のばす前の平ゴムの長さの違いやゴムがのびる部分を理解できない児童に対して、具体物を用いて問題場面を把握させる。 | | | |
| まとめ | テープ図では、のばす前の長さを１とみて、のばした後の長さがどれだけにあたるか求めればよい。  式では、のばす前の長さの□倍がのばした後の長さになると考えて、かけ算の式で表して□にあてはまる数を求めればよい。 | | | |
| 振り返り | ゴムの長さを切りそろえなくても、テープ図や式を使ってくらべられた。  わたしたちの身の回りに、割合を使ってくらべるものは何があるかな。 | | | | |
| 板書計画　　　　めあて　どちらのゴムがよくのびるといえるか、調べ方を考えよう。  課題 テープ図や式を使って、どのように調べればよいかな。  【問題】平ゴムＡと平ゴムＢがあります。  平ゴムＡは50ｃｍが150ｃｍまでのびます。平ゴムＢは、100ｃｍが200ｃｍまでのびます。  どちらがよくのびるゴムといえますか。  （式で考えた）  （テープ図で考えた）    平ゴムA  50cmの□倍が150cmだから50×□=150 □=3  平ゴムB  100cmの□倍が200cmだから 100×□=200　□=2  平ゴムAののびは３倍、  平ゴムBののびは2倍なので、平ゴムＡのほうがよくのびる。    ■平ゴムＢのほうがのびる  ・のばす前の長さが長いから  ■どちらも同じ  ・どちらも100ｃｍのびるから  **どのように調べればよいかな**  ・Ｂのゴムを半分にしてどのくらいのびるか調べる  ⇒切らずに調べる方法はないかな？  ・テープ図や式で考えられないかな  ・倍を使うと調べられそう  のばす前の長さを１とみると、Ａののばした後の長さは３、  Ｂののばした後の長さは２になるので、Ａのほうがよくのびる。  まとめ　テープ図では、のばす前の長さを１とみて、のばした後の長さがどれだけにあたるか求めればよい。  式では、のばす前の長さの□倍がのばした後の長さになると考えて、かけ算の式で表して□にあてはまる数を求めればよい。  ふり返り ゴムの長さを切りそろえなくても、テープ図や式を使ってくらべられた。わたしたちの身の回りに、割合を使ってくらべるものは何があるかな。 | | | | | | |